

# 第12次派遣(住田) 7月17日(日)~7月23日(土)

大塚 尚幸さん (新潟)

吉田 永生さん (新潟)

班長：本多 信介さん (セントラル)

## 《全労金第12次派遣の3名が出発しました！！》 7月17日



《左から、本多さん、吉田さん、大塚さん》



全労金第11次派遣として活動された北海道労組の矢野さん、静岡労組の川合さん、北陸労組の佐藤さん、東海労組の加藤さん、この間のボランティア活動、大変お疲れ様でした。

そして、今日から全労金第12次派遣として、新潟労組の大塚さんと吉田さん、セントラル労組の本多さんの3名が住田ベースキャンプに向けて出発しました。

住田BCへの派遣は、第12次メンバーが最後となり、8月からは別のBC派遣となります。7月23日までの活動になりますが、全国の組合員のみなさんから、3名に対しての熱いエールをお願いします。



## 《明日からスタート》 7月17日

大塚さん、吉田さん（新潟労組）、本多の3名の第12次派遣隊は、本日、10時30分に総評会館をバスにて出発しました。（セントラル労組の方々、お見送りいただき、有難うございます。）

今回は、3名とも20代ということで、（私の外見はともかくとして）若手フレッシュトリオ（既に表現が古い？）で頑張ります！！

高速道路の気温表示が「37度」になっていて思わず二度見してしまいましたが、「好天は雨天より、全然いい！」と、何事もポジティブに捉えて、これからの一週間を過ごしていこうと思います。

やや渋滞で遅れて、「入浴タイム10分カット」の指示にもめげず、さっぱりして、19時頃にベースキャンプに到着しました。

ミーティングには、ご自身が被災され、自動車で寝泊まりされていた、地元岩手の方がいらっしゃっていて、「こんなに沢山の支援が来てくれて、ホントに嬉しい」と、涙ぐみながら歓迎くださいました。

他産別のボランティアメンバーも、職種から年齢まで実に多彩で、連帯の力強さを垣間見たところです。

明日からいよいよスタートです。

頼りない班長で、大塚、吉田の両君と、全労金の末留書記次長はじめ、沢山の方々にお手をかけますが、よろしくお願いします。

※写真は、明日に向けて荷造りする吉田君です。 報告者・本多（セントラル）



## 《活動初日。大船渡へ》 7月18日



活動初日、私たち3人が拠点としている住田BCでは、これまで同様、「大船渡チーム」と「陸前高田チーム」の二手に別れ、それぞれの地域のニーズに応じ、ボランティアセンタースタッフの方が、派遣先の振り分けをされています。我々全労金班は、大船渡チームとして、一週間活動することになりました。 報告者・本多（セントラル）

まず私たちは、国際NGO ALL HANDSの方々と共に側溝の清掃を行いました。最高気温は28℃と猛暑日ではありませんでしたが、夏らしい晴れ空の下、すぐに他労組、ひいては他国の方々と復興への思いを共有しました。

いきなり初日午前中から作業着は泥まみれ、Tシャツは汗で絞る前の雑巾状態になるなど、飛ばしすぎの感がありますが…(^\_^;

安全第一を念頭に、午後からも頑張ります！ 報告者・大塚（新潟）

## 《初日、無事終了！！》 7月18日

初日の活動を無事、終了しました。

お昼休憩でご報告したとおり、本日は、大船渡港近くの道路の側溝の泥かき出しを行いました。と言っても、震災から4か月を経過し、泥というより、粘土のようになり、コンクリートを伝った水は油臭く、砂利も混ざっていて、皆苦戦しました。さらに、側溝は全て蓋が開くわけではないため、スコップや棒でつついては、かき出すという気の遠くなる作業でした。

苦勞の割に見える成果に乏しいのと、初日ということで皆張り切っていて、（他産別含め）多少飛ばし気味でしたので、各班と申し合わせし、午後は少し多めに休憩をとり、熱中症対策の水分＋塩分補給（塩レモン飴をなめてました。意外に効いた感じがしました。）をしっかりとし、無事、作業を終えることが出来ました。

私たちが今日作業した道路も、歴代のボランティアの仲間がバトンを繋ぎながら、現在の地点までかき出し続けて来たとのこと。

千里の道も一歩から。

復興支援の「継続」こそ重要と改めて感じました。写真が取れなかったので、今回は、僕らの拠点（寝床）をそっと写します。

追伸：全国の皆さんのコメントを拝見するのが3人の楽しみになっています。沢山のコメント本当に有難うございます。元気なご報告とともに、現地情報をお伝えして参ります☆

……ただ、その一方、慣れないブログ更新に苦戦し、「芸能人とか、ブログの女王とかスゴいなあ」と妙に感心する報告者なのであります(笑) 報告者・本多（セントラル）



## 《活動2日目の朝》 7月19日

おはようございます！今回最年少の新潟労組吉田です。今日は活動2日目になります。私たちは昨日と同じように大船渡市に向かいます。

ボラセン(ボランティアセンター)に行くまではどのような仕事を行うかはわかりませんが、与えられた作業をしっかりと行っていきます！という意気込みを込めた報告です。

ちなみに今日の岩手の天気予報は曇り、最高気温は25℃ということなので、コンディションは良いでしょうが、無理せず頑張ってきます。それでは行ってきます！)

## 《活動2日目終了！》 7月19日

2日目の活動を無事終わりましたので、報告をいたします。

今日、私たち全労金班は、個人宅の片付けを他産別の班とあわせて9人で行うことになりました。

依頼された被災者の方のお宅は津波の被害を受け、一階部分は水に浸かってしまい、窓ガラスはほぼ割れ、車も流されてしまったそうです。

お話では、水が引いた後の居間にはハマチや鯛が打ち上がっていたとか…

私たち3人は、水に浸かり、泥まみれになってしまった家財、雑貨、CDなどを1つずつ手洗いしました。砂利等が付着しているため、傷をつけないよう、丁寧に洗うのは苦劳しましたが、「自分の物以上に丁寧に」という皆の合言葉を胸に作業を行いました。

(私が洗ったT-BOLANのCD、ちゃんと聴けるといいなあ。)

写真は、依頼者宅の庭の整備をしている大塚さんの様子です。

ちなみに天候は曇りでしたが、活動中、何度かパラパラと小雨がちらついていました。明日からの天気が少し心配なところでは。

報告者・吉田(新潟)――作業中、依頼者の近所の方から、あら、こんなに丁寧にやってくれるのねー。ウチは、(浸水したものは)全部ボランティアの人に投げられ(捨てられ)ちゃったのよー。と、声をかけられました。

お話を伺うと、震災後、学生ボランティアが来てくれたのはよかったが、浸水したものを次々に「捨てていいですか？」と言われ、否定(断り)しきれなかったとのこと。せっかく来てもらったしという思いがあったようです。「被災者に寄り添う支援」の大切さを実感した一幕でした。 報告者・本多(セントラル)



## 《小雨。活動3日目、朝》 7月20日

おはようございます。

昨夜は、BC 付近でも激しい雨風で、夜間、目が覚めるほど激しい音がしていました。現在は小雨です。昨夜から、天候悪化は見込まれていたため、陸前高田地域のボランティア活動全面中止が地域の社会福祉協議会 から既に通達されています。



※陸前高田は、津波に全てさらわれ、更地状態で、風雨を遮るものがないため。

今日は、天候悪化を想定して、ほとんどの班で室内の作業が予定されており、私たち全労金班も、浸水したホテル（改装中）のクロス（壁紙）の引き剥がしという、室内作業を行う予定になっています。

埃が相当舞うことが予想されていますので、しっかり防護の体制で臨みたいと思います。報告者  
・本多（セントラル）

## 《第4日目！寒い朝》 7月21日

4日目の朝です。

ご報告が遅れましたが、昨日も無事、活動を終えています。

昨日は、大船渡港付近のホテルの内装工事の手伝いでクロス引き剥がし等を行いました。それまでと異なり、予め前日に作業内容が決まっていたことや、既に同じ現場に作業経験のある他の班がいて、要領を教わりながら作業できたこと、そして、何より（小雨はぱらついていたものの）気温が24度くらいで、暑くもなく比較的スムーズに作業が出来ました。



昨夜はすきま風の音がして、まさかの「寒い」状況でした。16℃位だったとのこと。初日と2日目は暑くて掛け布団が邪魔になるほど寝苦しかったので、気温の落差がかなりあります。

写真は、昨夜より現地スタッフとして住田BCに入られた岩手教職員組合OBの小野寺さんと撮ったものです。自己紹介後（食後）に僕らの方にいらっしゃって、気さくに話かけられ、「いやあ、私、去年まで東北ろうきんの副理事長してたんだよね。全労金さん、今回も支援有難うね。」と言われたのには大変驚きました。

現在は連合ボランティアの現地スタッフとしてご活躍され、住田BCには今回で5回目の入所という、ベテランでいらっしゃいます。金庫役員のご勇退後は、お遍路に出られる予定だったそうですが、「当分おあずけだな〜」とおっしゃっていました。

様々な方が東北の復興にご尽力されているんだなと改めて感じました。

本日も、元気に頑張ります！

追伸：セントラルの「せつお」こと、節代さん、タゴさん、応援有難うございます。せつおも遂に全国区ですね(笑)。一週間も職場を離れてのボランティア派遣も、職場の皆さんのフォローをいただいているからこそ、安心して取り組めると僕ら3名ともども職場の仲間感謝しています。

それではまた、行って来ます！ 報告者・本多（セントラル）

## 《活動4日目終了！》 7月21日

連日記事ご覧頂いてる方、さらにコメントを下さる方々、どうもありがとうございます！

全国の仲間からの温かいお言葉、このありがたさを実感する毎日です。

暑さに対するご心配に反して(?)朝の気温が15度と、長袖が必要な肌寒い気候で幕を開けた本日。初めて午前と午後で異なる現場で作業を行いました。

まず午前中は、昨日に引き続き漁港近くのホテルで壁紙とクロス引き剥がし作業を行いました。昨日に比べ壁が新たに塗られたり、ホテルがお客様の受入を再開したりと、着実な復興を身をもって体感しています。

そして午後は一般のボランティアと共に市の体育センターにて、海水に浸かってしまった備品の清掃と運搬を行いました。気温もぐんぐん上がり、和やかな雰囲気での作業となりました。

このとき、はっと気付いたのが作業している地元の方の笑顔です。震災により心に大きな傷を負っているだろうに、「今日はここまで終らせるぞ！」と一致団結しながら笑顔で我々を温かく受け入れて下さる姿に、感動すら覚えました。

残すところあと一日。正直なところ少々疲れを感じ始めたところですが、全労金の代表として皆様方の思いを被災地に届けられるよう、精一杯作業にあたりたいと思います。  
報告者・大塚(新潟)



## 《活動最終日の朝！》 7月22日

おはようございます！

遂に私たち全労金第12次派遣隊のボランティア活動も最終日を迎えました。

1週間で、この体育館で寝ることにも馴れてきましたが、今日の朝にはその馴染んだ寝床もすっかり綺麗に片付けをしました。なんだか少し寂しい気もします。

今日の天候は曇り、予想最高気温は25度と、絶好のボランティア日和となりそうです。最終日ですので気の緩みがないよう、今日もゼロ災でボランティア活動に励んできたいと思います！

それでは行ってきます！ 報告者・吉田(新潟)





## 《最終日の活動を終了しました》 7月22日

遂に、最終日の活動を終わりました。

午前中は、避難所で生活されていた方の仮設住宅への引っ越し作業をお手伝いしました。家財のほとんどが津波に浸かったそうです。家財（タンスや食器）、布団等を避難所や預けていた知人宅からピックアップし、運びこみました。

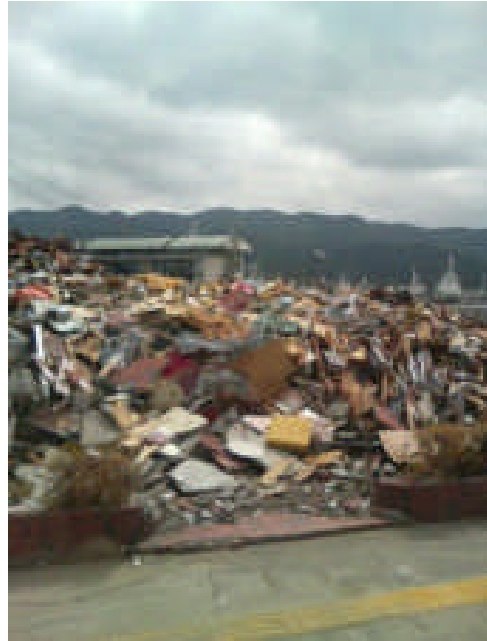
「まさか、4カ月もかかるとはね。」という、言葉には改めて復旧作業の遅れを実感しました。

午後は、初日に経験した側溝の清掃作業を行いました。いよいよ最後か…と名残惜しさを感じながら。

側溝のフタが分厚いコンクリート製のため、外すのに一苦労。そして取り除く土砂には重油が染み込んでおり、大変な臭い、土埃との戦いでした。

しかしそこは、気心知れた他労組の仲間たちとの助け合いにより、驚くほどスムーズに作業を完了しました。

以上、最終日の作業についてのみ一旦報告いたします。 報告者・大塚（新潟労組）



## 《災害救援ボランティアを終えて》 7月23日



全労金第12次派遣として、私たち三名が参加した、連合災害救援ボランティア（住田B C）も遂に終了となりました。

活動を振り返って、メンバーより、感想を綴っておきたいと思います。

《新潟労金労組：吉田永生》

活動に参加し、被災地を実際に訪れることで、被害の甚大さや復興までの道のりの大変さを肌で感じることができました。ボランティアに来る以前、私は今回の震災をどこかリアリティなく、テレビ画面の中だけで見ていたのかもしれませんが。

また「10年後、20年後にこの震災があったことを多くの方が忘れないでほしい。」といった被災者の方の言葉を、この1週間で何回か耳にしました。

私も今回の経験から、この大震災の被害や、被災者の方の想いを胸に刻み、微力ではありますがこれからも東北の復興の手助けを行っていきたいと思います。

今回このような貴重な経験をさせて頂き、本当にありがとうございました。

《新潟労金労組：大塚尚幸》

まず今回のボランティア派遣にあたり、全般を企画して下さった全労金執行部の皆さん、多くの情報や道具を用意下さった既に現地で活動された諸先輩方、そして派遣の前と最中に細かく、かつ温かい配慮を下さった新潟労組執行部の皆さんに深く感謝申し上げます。

私の実家はや年前の中越地震により被災しました（実はこのとき、町内の消防団にトラック一台分のカップ麺を送って下さったのが大船渡の消防団でした、奇遇！）。この恩返しを、と参加した今回の活動。

被災地の人々との出会い、目にした凄まじい光景、そして作業を共にした仲間達との出会い。これらは恩返しの範疇を超え、私自身に人間的な豊かさと助け合いの大切さについて多くを教えてくれました。

被災地の快復を心からお祈りするとともに、さらに多くの仲間とこの経験を共有できることを願っています。ありがとうございました。

《ろうきんセントラル労組：本多信介》

出発式前に初対面をしたばかりの私たち三名でしたが、同世代ということで打ち解け合い、特異な環境……作業後立ち寄る風呂では、長い洗い場待ちの行列を裸で待ったり(笑)……にも、三名とも順応していったことで、充実した活動をする事が出来たと思います。

僅かな経験の中ですが、最も心に残ったのが、復興支援を継続し、震災を風化させないことが大切ということです。ボランティアの現場では、「これは被災者の役に立っているのだろうか。」と、自分の無力さを感じるがあります。

そうした時、被災者の方々や現地スタッフに言われたのが、どうか震災を忘れないでください。ボランティアが1日でやれることは、限りがあるけれど、「明日もまた来てくれる」というのが被災者にはとても有り難いことなんです。という言葉でした。継続的支援の大切さを感じました。この思いを次の方へと繋げたらと思います。

最後に、他の産別の方々、連合のBC スタッフの方々に大変お世話になりました。

私たちは、最も若輩でしたが、作業現場や毎夜の班長会議で、「本多さん、どない思う?」「ろうきんさん、ここ教えて!」と、年齢に関係なく、どうすればより被災者の方々のためになるかを真剣に考え、話し合い、教え合い、分け隔てなく、接していただきました。

大船渡地域班の総班長で、様々な個性の班をまとめあげてくださった、日教組の池浦さん、「長靴はこうやって、小さくして持ち運ぶんや。こりゃ特許やで(笑)」等と、何かと気をかけてくださった、全水道の八木さん、ボランティアの受け入れから日々の調整まで、万全の準備をくださった、連合神奈川の佐藤さんはじめ、住田BCスタッフの皆さん、お名前を挙げると、キリがありません。本当にありがとうございました。

また、ブログを通じ、励ましのコメントを頂戴しました全国の仲間、そして、一週間も間の留守を手助けいただいた職場の仲間感謝して。(第12次派遣隊 一同)

以 上